

平成30年度 府立亀岡高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）実施段階

学校経営方針		昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点
<p>生徒一人一人が個性や能力を伸長させ、自立的に社会に参画し、人権尊重を基盤として、共に支え合いながら、地域社会の一員としての役割を果たすことが求められています。</p> <p>このため、教育目標や教育方針に基づき、数理科学科・普通科・芸術系が、それぞれの特色や持ち味を生かしながら、切磋琢磨し、学校の活性化を図ります。特に、次の3点を学校経営の基本方針とします。</p> <p>(1) 質の高い学習指導と確かな進路実現の具現化                      (2) 社会的自立を図るために必要な能力の育成                      (3) 地域・保護者に信頼される学校づくり</p>		<p>昨年度の成果(○)と課題(△)</p> <p>○新学習指導要領や高大接続改革の方向性を踏まえ、社会に通じる人として必要な力の育成について「亀高改革会議」の中で学校改革の議論が深まった。</p> <p>○新アセスメントテストの実施、総学「ジェネリックスキル」設置及び内容の検討、亀高Can-Doリストのブラッシュアップなど、カリキュラムマネジメントによる学校改革の方向性が定まった。</p> <p>○生徒が主役となった学校説明会などを通じ、生徒の自主性・積極性が涵養された。</p> <p>○△数理科学科における探究学習は深められた。普通科では次年度の総学で取り組む。</p> <p>○病院小児棟壁画の制作などの社会貢献をはじめ、美術工芸専攻の活動は充実したものにできた。</p> <p>○関係法の趣旨に基づき、人権教育の質向上、相談体制の充実を図った。</p> <p>○将来を見据える姿勢の醸成のために、卒業生や大学関係者など外部の人材を活用することができた。</p> <p>△大学進学実績については、継続した躍進とならず、前々年以前のレベルとなった。</p> <p>△主体的・対話的な学びに向けての、組織的な授業改善にはさらなる努力が必要である。</p> <p>○説明会などで中学生への身近な広報ができ、本校志願者数の維持・増加につながった。</p> <p>△ツイッターによる発信も頻繁に行ったが、HPの更新に課題を残した。</p> <p>○特別活動、部活動、生徒会活動の充実など生徒の自主性の育成を図ることができた。</p> <p>△部活動の環境整備に改善の余地を残した。</p> <p>○読書啓発活動の結果、図書館利用が増加した。</p> <p>○トビタテ留学ジャパンや海外中期・短期留学への参加など、海外に目を向ける生徒が増えた。</p> <p>○コンプライアンス意識、安心・安全の意識の向上を図ることができた。</p>	<p>(1) すべての学校生活の場で「生徒に身につけさせたい力」の涵養を図り、学校をあげて「社会に通じる人」の育成を目指す。</p> <p>(2) 新総学「ジェネリックスキルⅠ」の円滑な実施と内容の深化を図る。</p> <p>(3) 教育課程を総括し、次期学習指導要領や高大接続改革の趣旨を踏まえた教育課程の検討を行う。</p> <p>(4) 主体的・対話的で深い学びの研究をはじめ、組織的に授業の改善を行う。</p> <p>(5) 普通科・普通科美術・工芸専攻、数理科学科で学ぶ生徒の学力の充実に努める。</p> <p>(6) 部活動、特別活動などを通じ、学校生活に主体的に参加する姿勢を育成するとともに、活動を支援する環境の整備に努める。</p> <p>(7) 将来を見据えた進路意識にもとづき、自主的・自律的な進路選択ができるよう、組織的・系統的な指導を行う。</p> <p>(8) 広報に努め、本校の教育内容全般を周知し、本校教育活動への理解・支援につなげ、志願者を増加させる。</p> <p>(9) 障害者差別解消法や部落差別解消推進法などの趣旨に則り、人権尊重の視点を持ってあらゆる教育活動に取り組む。</p> <p>(10) 支援を必要とする生徒に対して、学校内における連携、外部機関等との連携により、必要な支援を組織的に行う。</p> <p>(11) 安心・安全かつ勉学への意欲を向上させる教育環境の整備を図る。</p> <p>(12) 国際社会で活躍する人材の育成を目指し、その基礎となる力を涵養する。</p> <p>(13) 教職員一人ひとりが、全体の奉仕者として高いコンプライアンス意識をもち、協働して教育課題に取り組み、本校教育に寄せる信頼を高める。</p> <p>(14) 学びの基盤となり、人生を豊かにする読書への積極的な姿勢を醸成する。また地域や社会に貢献する姿勢を育成する。</p>
<p>評価</p> <p>A 十分達成できている(目標以上の成果が得られた)</p> <p>B ほぼ達成できている(ほぼ目標どおりの成果が得られた)</p> <p>C 達成できているとはいえない(成果はあったが、目標に達していない)</p> <p>D ほとんど達成できていない(ほとんど成果がなかった)</p>			

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	分掌の目標
組織・運営	「社会に通じる人」育成を目指す学校改革の推進と魅力ある学校づくり	1 生徒に「身につけさせたい力」を意図した教育活動の展開	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校改編に向けて、新たに亀高プロジェクト会議を設置し、今後10年間を見据えた魅力ある学校づくりを目指した、学科改編、教育システムや教育課程、教育内容の在り方等について部長会議と連携して幅広い検討を進めた。</li> <li>・日々の生徒欠席状況を迅速に把握し、サーベイランスシステムへの情報提供や担任指導のサポートを行い欠席過多生徒への丁寧な指導や状況把握に努めた。</li> <li>・正確な成績処理に努め、調査書や指導要録作成等における校務システムの準備や運用を正確に行うよう努めた。</li> <li>・立命館大学高大連携プログラムを活用し、大学の講義受講を通じて、普通科の学びに対する興味関心を促進した。</li> <li>・Can-Doリストを軸として、研修旅行、京都研修、学年行事等に向けた取り組みの充実やつけさせたい力の明確化を図り、目的意識をもって主体的に行動できる力の育成に取り組んだ。</li> <li>・HPやTwitter等と通じて中学生やその保護者に、亀岡高校の魅力を伝えると共に、説明会や相談会の回数も増やし情報発信に努めた。美術・工芸専攻の志願者は増加したが、数理科学科については独自の説明会を行うなど広報活動に努めたが志願者の増加にはつながらなかった。</li> <li>・普通科美術工芸専攻において、美術系大学見学や大学でのワークショップ等の高大連携のより一層の充実を図るとともに、南丹美術・工芸パートナーズスクール等の地域連携や、公募、デザインコンペなどの校外活動に積極的に参加させるよう努めた。</li> </ul>
		2 高大連携をはじめとする普通科における特色ある教育活動と学力の伸長	B	
		3 普通科美術・工芸専攻における教育活動の充実	A	
		4 数理科学科における探究学習の深化と普通科への波及	B	
		5 本校教育活動の広報と志願者の増加	B	
		6 卒業生、PTA、地域の方などの協力を得た取組の充実	B	
		7 コンプライアンス意識を基盤とし、連携と協力による教育課題への取組	B	
教育課程 学習指導	確かな数科学科力とジェネリックスキルの育成	8 「学力の伸長」「家庭学習時間の増加」をめざした指導の充実	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間をととして家庭学習時間調査を行うとともに、日々の生徒への声かけや家庭学習を大切にしたい主体的・積極的な学びを促し、確かな学力の育成に努めた。</li> <li>・模試データについて詳細な分析を行い、それらを踏まえた各学年・教科の課題と学力向上に向けた進路指導の方向性を共有し、それらを通じて学年担当・教科担当へ学力向上の施策を促し、進路実現へ繋げるよう努めた。</li> <li>・「総学会議」「教職員研修」の活用、他分掌との連携を通して、総合的な学習の時間の計画的な実施に組織的に取り組んだ。</li> <li>・新着本の紹介等、様々な機会をととして、生徒の読書意欲を喚起するとともに、活字離れを防止するよう努めた。</li> </ul>
		9 主体的・対話的で深い学びの研究と組織的・体系的な授業改善	B	
		10 新総学「ジェネリックスキルⅠ」の円滑な実施	A	
		11 学びの基盤となり人生を豊かにする読書への積極姿勢の醸成	B	
進路指導 キャリア教育 生徒指導 人権教育	将来を見据え、志をもって進路にチャレンジする生徒の育成	12 将来像を描くためのキャリア教育の充実	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新の大学入試情報を学年部と共有し、進路指導実現を図るとともに、学校全体へ推薦入試・AO入試に対する意識の高揚を図った。</li> <li>・Can-Doリスト活用して、自らの将来について意識した学校生活について考えさせるようにはたらきはたらきかけるとともに、進路実現に向けた面談の充実を図り、模試の活用や、長期休暇等を利用したOCへの積極的な参加の呼びかけ等、進路実現に向けた生徒の主体的行動を促すように努めた。</li> <li>・社会の一員としての自覚を持ち地域と関わっていけるよう主権者教育の充実に努めた。</li> <li>・美術工芸専攻において、地域の陶芸作家から茶碗制作について学び、京都の伝統文化に理解と教養を深めるよう努めた。</li> </ul>
		13 「Can-Doリスト」の積極的な活用による「社会に通じる人」の基礎力育成	B	
		14 組織的・計画的な進路指導の充実	B	
		15 主権者教育の充実	B	
		16 自分の属するコミュニティに貢献する気持ちの醸成	B	
		豊かな人間性をはぐくむ教育	17 学校生活の充実感を高める指導の充実	
	18 規範意識の基盤としての倫理観の醸成		B	
	19 特別活動・部活動のさらなる活性化による自主性の育成と成果の追究		B	
	20 情報モラルに関する指導の充実		B	
	21 いじめを許さない学校体制の構築と教職員の連携		B	
	22 教育的配慮を必要とする生徒への組織的な対応と指導内容の充実		B	
	23 障害者差別解消法・部落差別解消推進法の趣旨に則った教育活動の推進		B	
	安心・安全・健康的な環境	24 健康・安全意識の向上と施設・設備の管理・改善	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康診断・各種検診の実施と事後指導を充実させるとともに、保健委員会の主体的な活動を支援し、生徒の健康・安全意識の向上を図った。</li> <li>・学校保健会議を通して生徒の健康安全および校内の学習環境に係る状況の把握と課題の改善に向けた取組を行った。</li> <li>・日々の清掃に加えて定期的に美化週間を設定して校内美化に努めるとともに、美化委員会の主体的な活動を支援し、生徒の美化意識の向上に努めた。</li> <li>・老朽化が著しい施設設備の修繕や更新と学習環境の整備に予算の範囲内で努めた。</li> </ul>
		25 美化意識の向上と清掃の徹底	B	
		26 学校生活に潤いを与え学習へのモチベーションを高める環境作り	B	
	グローバル人材の育成	27 異文化交流、異文化理解の推進	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外短期留学のプログラム等について、積極的な情報提供により生徒へ参加の呼びかけを行うとともに、海外留学報告会だけでなく、留学した生徒の学びが全校生徒に共有できるように努めた。</li> </ul>
28 海外留学にチャレンジする生徒への支援		B		
研究指定等	府立高校特色化事業(サイエンスネットワーク京都)、高校生伝統文化事業(文化歴史推進校)			
学校関係者評価 委員会による評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・亀岡には歴史や豊かな文化があり、探究活動等についても地域と連携して取り組むことができるのではないかと。</li> <li>・探究活動やプレゼンテーション力の育成において高大連携等をさらに活用することもできるのではないかと。</li> <li>・スマートフォンやインターネットの普及により様々なことをすぐ調べられるようになったが、表面的に理解することが多いと感じる。</li> <li>・しっかりと研究をしていくためには、ネットの内容に依存しすぎず、書物や文献などをじっくりと読み解いていくことも必要である。</li> <li>・今後も、小学校や中学校との連携をさらに深め、地域の学校としてさらなる発展を期待している。</li> </ul>			
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成32年度からの単位制の導入、新学科の設置に向けて、教育内容・教育活動および入学者選抜の準備を組織的に進める。</li> <li>・亀岡高校のすべての学科・専攻・コースについて、さらなる広報活動の充実を図る。</li> <li>・高大接続改革ならびに新学習指導要領の先行実施等を踏まえた教育内容の見直し、授業改善を継続する。</li> <li>・地域に貢献できる人材の育成を目指す。</li> <li>・安心・安全の意識を高め、教育環境の整備をより進める。</li> <li>・SNSの利用等の情報モラルについて学校全体として共通理解のもと組織的な指導を行う。</li> </ul>			